アッセンブリー２０１７　2nd 乙　１０番テーブル
文責：三浦（立教４）、篠原（青学４）

１．　テーブルメンバーと順位

1位　伊集院（法市３）
2位　見目（早稲田２）
3位　小田原（明治２）
4位　浅野（上智２）
5位　篠原（成蹊２）
5位　小西（フェリス３）
7位　芳野（成蹊２）

２．　議論の流れと総評

【OP 決め】

Narrow をそつなくこなしオピニオンプレゼンターには篠原と伊集院の２人が立候補した。両者ともトピックは臓器移植であったが、篠原は Mandate として C/criminal から臓器移植することを設定していたためオピメ決めの質問の際にはこの Mandate に対してテーブルメンバーから質問が飛んだ。伊集院のオピシは usual なものであり、コンパリアイディアに対し質問がなされた。そして voting の後、伊集院がオピニオンプレゼンターに選ばれた。

【Harm】

見目が TG はドナーからの臓器移植以外に病気を治す方法があるのかを尋ねた。これに対し伊集院は現実に別の方法で助かるが、オピシにおける TG は別の方法を使えず臓器移植だけが頼りの人々であるという回答がなされた。この回答に対しテーブルメンバーはオピシの TG も別の方法があるという誤解を抱いた。誤解を解くために伊集院は別の方法でも使える患者が AAD になるということを説明したが誤解は解けなかった。その後混沌とした時間が続いたが小田原がディバイドチャートにしてカンファメしたことで TG と AAD の違いが浸透した。伊集院が最初に質問した見目のゴールが TG の定義を明確にすることだったことを確認して、これ以上話さなければならないことがないことを共有し話が収束した。

【Cause】

なぜ臓器移植をする際に脳死者からの臓器提供にフォーカスするのかについて小西や篠原から質問が飛んだ。臓器の鮮度という観点やドナーが死に近く臓器移植をするのに適している点、脳死状態から回復する見込みがないことが理由だとわかり収束した。

【NFC】

① 小田原さんのアーギュ

2 人が obj を出したが、まずは小田原のアーギュが検証された。脳死者家族の臓器移植に反対という意思が尊重されていない、よって日本政府はそういった意思表示の権利を奪うべきではないといった内容であった。このアーギュに対しては伊集院が中心にアプローチしていった。そこで権利は人が生きていく上での基盤となるものであるという意見が明らかになった。その後伊集院が get AD,DA ができることを認められるか小田原に尋ね、これを認めたためコンパリにおいて DA＞AD のロジックを用いて小田原の意見を話そうと提案をした。この提案に小田原が乗りこの obj は収束した。

② 見目くんのアーギュ

次に見目のアーギュが検証された。このアーギュはデータに対する obj で APA よりも S.Q の方が良くもし現状を変えたら、m/s/w になるため変えるべきでないというアイディアであった。S.Q では臓器移植以外の別の方法を患者が使えること・脳死者の臓器提供の意思表示の両方ともが保障されているが、APA では患者の臓器が欲しいという意思は尊重されていても脳死患者家族の臓器提供の意思表示は尊重されていないため総じて S.Q の方が APA より良いという内容である。見目はこのアイディアを T／point を用いて話そうとしたが、結果的に T／point 通りには話されなかった。

このアーギュに対しても伊集院が中心となってアプローチをした。まずは見目の S.Q＞APA のロジックが通常のコンパリとどのように異なるのか尋ねた。その後、伊集院がこの話は今でなくコンパリのエリアに行ってから話そうという提案をした。しかし、見目はこれを固辞した。それからというもの伊集院が立証責任を見目に促したり、NFC の room を確認する上で m/s があることを要件だと考える伊集院と、S.Q＞APA のロジックが要件だと考える見目で意見が対立するなどした。議論は 1 時間ほど空中戦の様相を呈したうえ見目には感情的な場面が多く見られ、具体的な進展がなかった。そして解決の糸口が見えないまま 3 時間が経ち議論終了となってしまった。

【総評】

① Harm

ここでは主に２つの事を振り返りたいと思います。１つ目に Harm での TG の定義のゴチャリについてです。TG に関わりそうな other way の有無などは議論において混乱を生みやすいところです。混乱なく終わるためにはディバイドチャートで最初のディバイドでは、患者一般に other way が有るのか無いのか。次のディバイドで今日の TG が other way を使えるのか使えないのかというように分けて書くことが大事だと思いました。また、その時に other way が使える患者はアディショナル AD といった説明がありました。これは正しい考えですが、AAD というワードは混乱を生みがちなので過度な使用は避けた方がいいと思いました。AAD は今回の場合だと S.Q でも海外に手術しに行くなどして病気の治療が可能な人。このような患者は Mandate が施行されれば海外に行かなくても日本で臓器移植を受けられ、病気治療が可能になるという意味ですが、このような AAD は今回のオピシにはあまり関係がありません。一方今回の TG は例えば病気が重篤で海外に行けない患者であって S.Q では other way がないわけで AAD とは性質が異なります。AAD と切り離して考えて後者が今回の TG であることを確認しましょう。

② NFC の見目くんのアーギュ

次に見目くんのアーギュへのアプローチについてです。今回のテーブルではこのアーギュをフレームでしか話していないというか方法論だけ話してアーギュの中身について話されなかったのが残念なところでした。見目くんに対して後で話そう的な提案をしても上手くいかないと思った時点でアーギュへのアプローチの仕方を変えたら良かったかなと思いました。S.Q＞APA のロジックの内容がどんなものなのか再確認して内容に対して反論を行うのが最善の方法だったかなと思います。例えばこのロジックは尊重という側面から S.Q : 患者への尊重有り、脳死者への尊重有り　APA : 患者への尊重有り、脳死者家族への尊重無し　という有有＞有無で成り立たせようとしていました。
このロジックに対して、S.Q ではこのままだと患者が救われないのに対し APA では Mandate によって救われる数が増えるといったように患者の数に着目して S.Q＜APA のロジックを提示するのもいいかなと思いました。
見目くんのアーギュへは伊集院さん以外はほとんど介入していませんでした。惜しいことです。両者の間を取り持つ第三者介入ができたら最強ですが、そんな難しいことは言いません。何でもいいので疑問に思ったことがあったら質問してみること、できれば同じ質問を両者にしてみるとか。長時間同じ相手に話しているのでそこで誰かが介入すれば聞いてくれると思うし、その介入をきっかけに解決の糸口がつかめるかもしれません。今後このようなケースに立ち会った時には些細な質問でもいいので勇気をもって介入してみてください！

個人順位と選定理由

文責：篠原（青学４）

１．個人順位

１位　伊集院（法市３）
２位　見目（早稲田２）
３位　小田原（明治２）
４位　浅野（上智２）
５位　篠原（成蹊２）
５位　小西（フェリス３）
７位　芳野（成蹊２）

２．　選定理由

１位；伊集院（法市３）
OP として議論の土台をつくり、テーブルの進行に努めていた点、また見目の obj はじめ、すべてのアイデアにＣやＳで積極的に介入を行った点を評価し、１位としました。
常に落ち着いた態度の伊集院はテーブルの中心的存在であり、とりわけ、ASQ におけるハンドリングには十分なプレパを行ってきたことが覗えました。obj に対して、task 以外の切り口で対応することができたら更に良かったかと思います。お疲れ様でした。

２位：見目（早稲田２）
自身の obj のみならず、ASQ から積極的に Q や C で介入を続けていた点を評価し、２位としました。介入量としては伊集院に勝っていましたが、議論の後半での介入の多くは既に出ている話題の反復であった点、また自身のための介入が目立った点が１位との差となりました。周りを見た先に進めるための介入を意識してほしいなと感じました。そして、基礎中の基礎ですが、傾聴力をもっと大切に。今後の活躍に期待しています！

３位：小田原（明治２）
ASQ における C を中心とした介入、また自身の obj を提示した点を評価し、３位としました。ASQ では、話が混沌とした時に小田原の C により先に進む、という場面がいくつか見受けられました。しかし、他人の obj に対する介入が少なかったため、２位とは差がついてしまいました。今後は第三者的な立場から介入する力がつけば、さらに良い結果になるかと思います。頑張ってください！

４位：浅野（上智２）
議論全体を通じて、Q を中心とした介入を行った点を評価し、４位としました。介入量は少なかったものの、周りとは違った視点を持った介入が印象的でした。ただ、自身の介入のタイミングで他者に割って入られてしまう場面が多く、見ていて惜しい！と感じた場面が多くありました。自分の話は自分で話し切る、また介入量を増やしていく、という点を意識してもらえたら、さらに良くなると思います。

５位：篠原（成蹊２）
obj に入るまでは、Q やC を中心とした介入を行っていましたが、議論の後半では殆ど介入が見られなくなってしまったため、この順位となりました。他者の話題にどのように介入していくか、今後プレパで身に着けてもらえたらいいと思います！

５位：小西（フェリス３）
篠原君と同じく、obj に入るまでは自分発信の Q を中心とした介入を行っていましたが、議論の後半で介入がなくなってしまったため、この順位となりました。今回のテーブルで難しかった点はあるかと思いますが、総評など使って是非エデュケの際に役立ててください。
お疲れ様でした！

７位：芳野（成蹊２）
介入が限定的であったため、この順位となりました。介入はできなくても、このテーブルで感じたことはあると思うので、自身で見つめなおし、今後に役立てて欲しいです！